

宇宙からの黒船を迎え入れよ

平和統一 NEWS 55 号 (2013/4月号)

渡辺 久義

今、世界は恐るべきスピードで動いており、我々は頭の切り替えを常に迫られている。メディア（特に日本の）がおくびにも出さないことで、実は我々の生死にかかわる情報が蓄積し、いま臨界にきていることをメディアも政府も知っているはずである。この生死に関わる秘密の開示は Disclosure と呼ばれ、いつ起こっても不思議でない状態にある。UFO とか E T（地球外人）というといまだに半信半疑の人々（とりわけメディア・政府の責任者）のために、この話をしておきたい。

創造デザイン学会サイトの、いくつかのデイヴィッド・ウィルコックの翻訳論文でわかるように、一昨年あたりから、アメリカの「暗黒勢力」（イルミナティ）の地下軍事基地が次々に破壊されているが、これは核兵器も使わず、死者も負傷者もないという不思議な方法によるものだった。インターネットで見ると、アメリカでは盛んに報道もされ、政府もエイリアンによるものと認めているようである。

しかしこれについては、破壊した側のサルーサ（SaLuSa）という女性 E T が、2011 年 12 月 2 日にこう言っている（サルーサは「銀河連盟」Galactic Federation のリーダー、2006 年以来、ほとんど毎日のように、しかし最近は一週に一回、地球人に通信してきている。Tree of the Golden Light を検索せよ。日本語訳は Japanese-Galactic Federation by Mike Quinsey に、ごく最近のものがある）――

私たちはすべての生命を尊重するが、彼らは相手と同じ人間であっても、全くそれを顧みない。生命は彼らにとって消耗品であり、彼らは誰でも自分たちの邪魔になる者をそのように扱う。これに対して私たちは「敵」を殺したり傷つけたりするのではなく、安全な所へ移送する（注、これは“portal out”と呼ばれる技術、いわゆる「神隠し」だと思われる。おそらく宇宙の別の場所へ移されたのであろう）。

だから私たちは、地下軍事基地を破壊するに先だって、すべての人員を移動させたのだと考えていただいてよい。それを否定する人は、虚偽の報道をしているのであり、私たちを悪く描こうとしているのである。

「銀河連盟」は、科学技術に関する限り、私たちの優越性を示すのを躊躇しない。こうして私たちに対する抵抗が無駄であることを、暗黒勢力に分からせるのである。

にもかかわらず彼らは、彼らとどんな契約をする時も、私たちがルールに従わなければならないことを知っているので、しぶとく敗北を認めないのである。

ウィルコックがこれを「神の介入」と呼んだのは正しいであろう。相手は何者であろうと、殺すことはこの宇宙の（カルマの）法則に反することだと彼らは口を揃えて言う。彼らは今、地球に起ころうとしている激動を我々が無事に乗り越え、進化できるように、我々を助ける使命を帯びてここに来ているのだと言う。そこで、地球に巣食うネガティブなエネルギーは、地球から除いておかねばならない。そこで、光の軍団と闇の軍団の決戦という、少年の胸をときめかすような事件が現実には起こっているのである。

現在、世界的に「チャネリング」と呼ばれる、高次元人間と地上人との交信が急速に盛んになっている。このこと自体、大半の人々は信じようとしなないかもしれないが、この事実の意味は認めなければならない。出所は異なっても、彼らからの情報や忠告はほぼ一致している。百歩譲って、かりに彼らの言っていることが起こらなかったとしても、許しや、他者への奉仕や、無償の愛を説き、我々が長年、陰の権力に支配され洗脳されてきたことを教えてくれる人々が、我々に嘘を言っていると考えることはできない。彼らの言うことは信じざるを得ない。

前記サイトの「地球再生——来るべき地球変化への序章」という記事で、「彼らは核装置が使用されようとするその時点で、これを無力化することができる」と言っているところがある。これを信ずるなら、たとえ単に「抑止力」のためであろうと、我々は核武装などすべきではない。かりに大量の核兵器を備えたら、その時点で、我々が「天から」見離されるということもあり得る。サルーサのように、6年以上も必死に我々に話しかけてきたような人々の、誠意を疑うことはできない。例えば彼らのこんな口ぶり（文体）から、それは判断できる——

人々は、自分たちの知っていることと慣れによる安定と快適さを脅かすものとして、変化ということを好まない。しかし私たちが、私たちの役目を果たして公然とあなた方と交流できる日は、遠くないはずである。チャネリングによるメッセージも重要なのだが、私たちはあなた方に直接会って、私たちがどういう者なのかを見てもらわなければならない。私たちが間近に見れば、私たちが平和大使としてここに来ていることが分かって、すぐにどんな恐怖も感じなくなるだろう。

しかしやはり、もし私たちがあなた方の上空をもっと自由に飛ぶようになって、あなた方の軍隊が私たちが射撃しないように命令が出されることを望む。危険を避けることはできるのだが、私たちがあなた方にもっと接近し、危害のリスクなしに接触できるようになることを望んでいる。あなた方の中でサイキックな傾向をもつ人々は、

「光」を拡散する人々の集まる所に、私たちがより多く現れるということに気付いておられるだろう。今後もそれは続くだろう。それは、私たちがあなた方を保護するというだけでなく、あなた方をより大きな光の中に包んで、その人たちすべてが更に高く引き上げられるためである。これが「セドナ会議」でのあなた方の経験だった（注、セドナはアリゾナ州の霊地）。そして何人かの人々はそれに圧倒されていた。そこでこれと同じことが毎日起こると想像せよ。それはすぐにも、あなた方の普通の日常体験になるだろう。あなた方はより高い振動に触れたので、それがどんなに素晴らしい感じであるかが分かっているだろう。（SaLuSa, Nov. 9, 2012）

そこで、我々3次元世界の唯物論科学だけが科学であると主張し、我々をその考え方の檻の中に閉じ込めようとする方々に、訊いてみたい。あなた方は心からの信念でそうしているのか？ それとも何か胡散臭いものを、自分の言動自体に感じていないか？ 考えるヒントはあの車椅子のホーキング博士である。

彼はあの *The Grand Design* という本——どなたかこのタイトルの意味を考えてみた人はいますか？ これは神のデザインでないことは確かなのだから、では誰のデザイン？——において、存在するのは物力だけで、我々に自由意志などない（つまり誰かの奴隷である）と主張し、ロンドン・オリンピックのパラリンピックの——デンバー国際空港の像や壁画と明らかに意図を同じくする——あの不気味きわまる閉会式に出演し——私の言うことがわからない方はご自分でお調べください——それに、UFOは危険だから関わらない方がよいとも言った。すべて辻褃が合うではないか？ これは彼の信念から出たものだろうか？ それとも彼の名声を利用したい誰かのためにやっているのだろうか？

最後に言っておきたい——呪詛や嘲弄や奴隷化といったネガティブなものは、新時代では生きていけなくなるということ。